

平成29年度  
自己点検・評価書  
(学校評価報告書)

大阪教育大学附属天王寺小学校

## 1 現況

### (1) 学校名

大阪教育大学附属天王寺小学校

### (2) 所在地

大阪市阿倍野区松崎町 1 - 2 - 4 5

### (3) 学級数

1 8 学級 ( 1 学年 3 学級 )

### (4) 児童数

6 2 1 名 ( 男子 3 1 4 名 女子 3 0 7 名 )

### (5) 教職員数

校長 ( 併任 ) 1 名, 副校長 1 名, 主幹教諭 1 名, 教諭 2 2 名 ( うち, 臨時的雇用 2 名 ), 養護教諭 1 名, 非常勤講師 3 名, 事務職員 1 名, 臨時的用務員 1 名

## 2 特徴

本校は, 大阪教育大学の附属する小学校で, 教育基本法及び学校教育法に基づいて義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを行う。

## 3 役割

- (1) 大学と一体となって, 教育の理論と実際に関する研究を行う。
- (2) 大学の教育実習機関として, 実習生を随時受け入れ, 適切な指導を行う。
- (3) 教育に関する理論を研究し, 教育実践に役立てる。
- (4) 現職教員に研修の場を提供する。

## 4 学校教育目標

個が生きる学校

- ・ 自他の人格を尊重し, 実践力のある子
- ・ 生命を尊重し, 健康で安全につとめる子
- ・ みんなと協力してしごとのできる子
- ・ 自分でよく考え, すすんで実行できる子
- ・ ものごとを最後までやりとおせる子
- ・ きまりを守り, 明るくくらせる子

5 平成29年度 重点目標, 具体的な取組内容, 評価結果

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

※28年度と比較し, 5%以上の変化が生じた項目を中心に改善点を述べている。5%未満の項目の改善については今後の検討課題とする。

本年度の 重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
教科教育 (学習指導) ・保護者の学習に対する理解を得て連携を図り, 各教科の学習内容の確実な定着をめざす。	<p>【取組内容】ノート指導を中心として, きちんとできるようになるまで繰り返し取り組ませるとともに, その児童の学習の取り組み方や, 友だちとの関わり方のよさを適宜称賛することで有能感を高めるようにする。</p> <p>また, 集会や個人懇談会の場で, 学習面についての具体的な内容を伝え, 理解が得られるような場を設定し, 保護者との連携を図り, 学習内容の確実な定着をめざす。</p> <p>【評価規準】本校の学習への取り組みについて, 保護者が理解できたと回答する割合が9割以上でA, 8割以上でB, 7割以上でC, 6割以下でDとする。</p>	<p>教員は, 「十分に理解が得られた」「ある程度得られた」を合わせて<b>100%←100%</b> (28年度, 以下28と表記する), 保護者は, 「十分に理解ができた」「ある程度理解ができた」を合わせて<b>93%←92%</b> (28)であった。</p> <p>また学習①(ノートづくり)に関して, 低学年児童では, 「授業を楽しみ, 自分から家で話をしたり, ノートを見せたりしている」「お家の人に聞かれたら見せている」を合わせて<b>81%←65%</b> (28), 中学年児童</p>	<p>28年度と比較し, 児童の学習①(ノートづくり)において, 低学年, 中学年で向上が見られる。今後も継続的に取り組む必要がある。一方, やや減少傾向の高学年においては, ノートづくりの指導</p>	B	<p>集会で子どもの様子をより具体的に伝える努力を継続することが大切である。</p> <p>ノートづくりについては, マンネリ化を起さないように工夫が必要である。</p> <p>あいさつ, 朝ご飯, 時間を守るなど, 家庭で付けるべき習慣もある。家庭との連携が大切。</p>	B	<p>集会では, 連絡事項の説明だけに終わらないように, 各学級の子どもの様子を伝える工夫を行う。</p> <p>ノート指導は反復的な意味と, 自分の探究心の表現の意味もある。後者の意義をもっと保護者に伝える努力をしなければならない。</p> <p>基本的な生活習慣</p>

		<p>では、「自分の思いや考えを書いたノートづくりを、家の人にもノートをよく見せている」「ノートづくりを楽しんでいる」を合わせて<b>87%←82%</b> (28)、高学年児童では、「自分の思いや考えを書いたノートづくりを創意工夫することを楽しんでいる」「心がけている」を合わせて<b>82%←86%</b> (28)であった。</p> <p>さらに、学習②(態度)に関して、全学年児童では「勉強がよくわかって楽しかった」と答えた児童が<b>82%←75%</b> (28)であった。</p>	<p>法の見直しが必要である。</p> <p>学習②(態度)においては全学年に於いて改善が見られている。この後も、わかる楽しさを追求する授業づくりを継続することが必要である。</p>			<p>の定着は学力や学習態度とつながる重要なものである。家庭と学校で互いに問題意識を共有化し、取り組むようにする。</p>	
<p>学級経営</p> <p>・互いの存在を尊重し合える学級作りに努める。</p>	<p>【取組内容】「Q-U」アンケートの結果をもとに、各学年とその学年に関わる教員とで連携を図り、個に応じた指導をするとともに、関わり方の成長を適宜称賛することで有能感を高めるようにする。</p> <p>また、集会や個人懇談会の場で、保護者との連携も図り、学級運営についての理解が得られるようにする。</p> <p>【評価規準】「Q-U」アンケート(6月、10月、2月の計3回実施)を使って、各学年とその学年に関わる教員とで共通理解を図り、手立てを講じて改善することがで</p>	<p>教員は、「学年当初よりも改善することができた」は<b>75%←85%</b> (28)、保護者は、担任の学級経営について、「十分である」「概ね十分である」を合わせて<b>93%←89%</b> (28)であった。</p> <p>また、児童は、学級のさまざまな場面で、「なかよく協力することができた」「協力することができた」を合わせて<b>95%←91%</b> (28)、「困っている</p>	<p>教員の自身の学級経営に対する問題意識が高まっていることが読み取れる。</p> <p>次年度においては、学級経営に対する具体的な方策について検討を進める必要</p>	B	<p>I QよりE Qが大切。また生活習慣と同様に、学年が変わっても大切にすべき学習習慣がある。学年のベースとしての学習習慣を明らかにし、学年間の情報共有を行うことが重要である。</p>	B	<p>集会の場などで、学校として大切にしたい学習習慣や生活習慣を保護者に伝え、共有化する。</p> <p>そのことで、家庭と学校が同じ方向を向いて指導できるようにする。</p>

	きる。	とき、やさしくされたことに、よく気が付いた」「ときどき気が付いた」を合わせて <b>96%</b> ←94% (28) であった。	がある。				
生活・安全 ----- 清掃指導 ・学校を美しくするため、責任をもって清掃活動ができるようにする。 ・自分の役割を自覚し、友だちと協力して清掃することができる。	<p>【取組内容】清掃における自分の役割を自覚し、友だちと協力して清掃活動を進めることができるように指導する。</p> <p>【評価規準】自分の担当場所を、友だちと協力して清掃できた。</p>	<p>教員は、「清掃方法の徹底ができた」「概ねできた」を合わせて<b>86%</b>←100% (28), 「責任をもって清掃活動に取り組めるように支援を、十分にすることができた」「概ねすることができた」を合わせて<b>96%</b>←95% (28),</p> <p>保護者は、清掃①（態度）に関して、「子どもの清掃活動に取り組む姿勢は、責任をもって清掃ができるようになった」「概ねできるようになった」を合わせて<b>76%</b>←33% (28) であった。</p> <p>また清掃②（環境）に関して、「学校が前よりとても美しくなった」「前より美しくなった」を合わせて<b>44%</b>←73% (2</p>	<p>保護者より、児童に対する清掃指導に改善が見られることは評価されているものの、学校環境に対して問題が指摘されている。</p> <p>それは児童自身の意識に変化が少ないが、教員自身は不十分であると認識していることに反映されていると考える。</p>	B	<p>掃除も大切な生活習慣の一つである。まず一人一人が学校をきれいにする意味を感じる必要がある。</p> <p>その上で、PTAの協力を得ることで、学校に関わる者全員で学校を美しくする意識をより持てるようになるのではないかと考える。</p>	B	<p>清掃指導においても、学年のベースや学年間の情報共有が不十分なので、その改善を行う必要がある。</p>

		8) であった。 なお児童の意識を見てみると「がんばって掃除してきれいにできた」が <b>78%</b> ←74% (28), 「いつも友だちと協力して、きれいになるように掃除をした」「だいたい…」を合わせて <b>98%</b> ←97% (28) であった。	清掃について、より組織的に検討し、美しい学校づくりに努力する必要がある。			
ソーシャルスキル・対人関係の基本的なマナーやルールを守り(「配慮」のスキル)、人とかかわるきっかけや関係の維持、感情交流の形成(「かかわり」のスキル)ができるようにする。	【取組内容】日々の授業や特別活動において、ソーシャルスキルが高まるような取り組みを進め、給食や清掃、休み時間や放課後など学校生活の様々な場面で指導する。 【評価規準】対人関係の基本的なルールやマナーを守り、他者とよりよくかかわろうとしている。	教員は、「友達とよく関わろうとするように指導できた」「概ね指導できた」を合わせて <b>100%</b> 、保護者は、「子どもはいつも友達とよりよく関わろうとしている」「たいてい…」をあわせて <b>99%</b> であった。 また、児童は、「友達の気持ちを考えて、いつも行動することができた」「たいてい…」を合わせて <b>95%</b> であった。	教員、児童、保護者より、高い評価を得ている。 来年度は、評価項目を検討し、児童の課題をより具体的に見据えた取り組みが必要である。	B	保護者も教員も児童もみんな高い評価を得ている。これはよくできていると評価することも可能であるが、評価項目の内容の問題とも考えられる。 例えば、附属中学校でもソーシャルスキルに関わるアンケートを行っているので、参考にしてみてもどうか。	B ソーシャルスキルそのものは今後も求められる重要なスキルである。 評価項目をより具体的にして、指導に活かせることができるように工夫する。
登下校指導 周囲の状況に配慮し、安全に登下校で	【取組内容】登下校時の様子の把握に努め、周囲の状況に合わせて歩いたり、乗車したりできるように指導する。 【評価規準】登下校時刻を守り、周りの	教員は、登下校指導①(時刻)に関して、「下校時刻を守らせるように徹底することができた」「概ねできた」を合わ	28年度に比べ、保護者より、登下校指導への高い評		あいさつできない児童が多いことが気になる。 またPTAの立ち当	多くの保護者の方に関心を持ってもらうことが大切。

<p>きるようにする。</p>	<p>人に迷惑をかけないように、周囲をよく見て安全に行動できている。</p>	<p>せて<b>100%</b>←100% (28), 登下校指導②(注意)に関して、「周囲に注意しながら安全に下校させるように、年間を通して指導することができた」「概ね指導することができた」を合わせて<b>100%</b>←96% (28)であった。</p> <p>保護者は、「周りの安全に気をつけながら登下校することができていた」が<b>52%</b>←45% (28)であった。</p> <p>児童は、登下校(時刻)に関して、「下校の時刻を確認し、毎日守ることができた」「守ることができた」を合わせて<b>94%</b>←91% (28), 登下校(注意)に関して、「周りの様子に気をつけながら、安全に下校することができた」が<b>73%</b>←71% (28)であった。</p>	<p>価を得ることができていた。一方、実際に児童が周りを注意して登下校ができていないことに対して、改善が見られないと評価がなされている。来年度では、より組織的に検討し、児童の登下校の態度の改善に対して努力する必要がある。</p>	<p>B</p>	<p>番等で、父親の方に児童の様子を見てもらう機会も少ない。</p> <p>夏休みなど、父親の方が来校しやすい時期に安全について考える機会をもうけてはどうか。</p>	<p>B</p>	<p>児童の登下校の態度については継続的に問題が指摘されている。より保護者の方の協力を得て、指導を連携していくことが必要。</p>
<p>健康教育 ----- 保健指導 ・衛生意識を高める。</p>	<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担任及び保健委員会の活動と連携して啓発・調査を行う。</li> <li>・定期的に結果をまとめ、学級や朝礼で啓発する。</li> </ul> <p>【評価規準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健委員会、学級担任によるエプロン</li> </ul>	<p>教員は保健指導①(給食)に関して、「給食準備中の身支度や手洗いの指導で、多くの児童ができるようになった」「できるようになった」を合わせて<b>93%</b>←100% (28), 保健指導②(衛生)に関して、「つ</p>	<p>給食準備中への指導に対する改善が必要である。</p> <p>手洗いの徹底、立ち歩かせないなど、</p>	<p>B</p>	<p>給食指導が不十分になってきているのか。基本的な生活習慣と同様に、家庭で付けるべき力と関連するので、家庭と連携して取り組むことが必要。</p>	<p>B</p>	<p>清掃指導などと同様に、学年のベースをつくり、学年間の情報の共有をはかる。</p>

	<p>・マスク・帽子（又は三角巾）の調査・指導を適時行い，着用できている児童の割合が9割以上である。</p> <p>・学級担任による爪を切るよう指導を行い，爪を切っている児童の割合が9割以上である。</p>	<p>めを切るように指導し，児童が適切な長さであった」「多くの児童が…」を合わせて，<b>84%</b>であった。</p> <p>保護者は，保健・給食指導の取り組みについて，「十分である」「概ね十分である」を合わせて<b>91%</b>←90%（28）であった。</p> <p>また，児童は，給食の準備について，「もともとできていた」「できるようになった」を合わせて<b>93%</b>←95%（28），つめを切ることについて，「きちんと」「のびたら」を合わせて92%であった。</p>	組織的に努力する必要がある。				
<p>その他 ----- 業務見直し ・学校行事 ・PTA活動</p>	<p>【取組内容】今年度，労働時間縮減に対する業務の見直しを行う。学校行事を含めた教員の業務を整理し，来年度につなげる。また，PTA活動についても同様に行う。</p>	<p>出版物の発行回数を減らしたり，18時以降の留守電対応にしたりして，教員の労働時間縮減の対策をした。また，PTA活動についても，次年度に引き継ぐものを精選し，よりよいPTA活動が展開できるように取り組みを始めている。</p>	<p>学校行事やPTA活動を精選し，教員と保護者がよりよく連携を図ることができるよう，今後も業務の見直しをしていく必要がある。</p>	B	<p>人事交流による教員の入れ替わりが多いので，仕事の引き継ぎが難しいと思われる。学校行事やPTA活動も以前のものをそのまま引き継ぐのではなく，年度ごとに新しいものを作っていくことも大切である。</p>	B	<p>学校行事を含めた業務の見直しをその年度ごとに新しく作り，学校とPTAが連携を図り，よりよい学校づくりをめざしていく必要がある</p>

【資料：アンケート結果】※28年度と比較し、5%以上増加を青字、減少を赤字とする。

### 教員アンケート

I. 学習指導	
学習の取り組みについて、保護者に伝え、十分に理解が得られた。	45%
学習の取り組みについて、保護者に伝え、ある程度理解が得られた。	55%
学習の取り組みについて、保護者に伝えたが、あまり理解は得られなかった。	0%
学習の取り組みについて、ほとんど伝えられず、理解も得られなかった。	0%

II. 学級運営	
個に応じた指導について、学年に関わる教員や保護者と連携を図り、学年当初よりも改善することができた。	75%
個に応じた指導について、学年に関わる教員や保護者と連携を図ったが、学年当初とあまり変わらなかった。	25%
個に応じた指導について、学年に関わる教員や保護者と連携を図ったが、学年当初より芳しくない結果となった。	0%

III. 清掃指導①	
清掃分担場所の清掃方法の徹底ができた。	27%
清掃分担場所の清掃方法の徹底が概ねできた。	59%
清掃分担場所の清掃方法の徹底があまりできなかった。	9%
清掃分担場所の清掃方法の徹底が全くできなかった。	5%

IV. 清掃指導②	
子どもたちが責任をもって清掃活動に取り組めるように支援を十分にすることができた。	55%
子どもたちが責任をもって清掃活動に取り組めるように支援を概ねすることができた。	41%
子どもたちが責任をもって清掃活動に取り組めるように支援をあまりできなかった。	5%

V. ソーシャルスキル ※29年度より	
友だちとよりよくかかわろうとするよう指導できた。	71%
だちとよりよくかかわろうとするよう概ね指導できた。	29%
友だちとよりよくかかわろうとするようあまり指導できなかった。	0%
友だちとよりよくかかわろうとするよう全く指導できなかった。	0%

VI. 登下校指導①	
児童に下校時刻を守らせるように徹底することができた。	62%
児童に下校時刻を概ね守らせることができた。	38%
児童に下校時刻を守らせることができなかった。	0%

VII. 登下校指導②	
周囲に注意しながら安全に下校させるように年間を通して指導することができた。	62%
周囲に注意しながら安全に下校させるように概ね指導することができた。	29%
安全に気をつけながら下校するように指導することができなかった。	10%

VIII. 保健指導①	
給食準備中の身支度や手洗いを指導し、多くの児童ができるようになった。	52%
給食準備中の身支度や手洗いを指導し、児童ができるようになった。	33%
給食準備中の身支度や手洗いを指導したが、できる児童が増えなかった。	14%
給食準備中の身支度や手洗いを指導しなかった。	0%

IX. 保健指導② ※29年度より	
つめを切るように指導し、多くの児童が適切な長さであった。	21%
つめを切るように指導し、児童が適切な長さであった。	63%
つめを切るように指導したが、きちんとつめを切る児童が増えなかった。	5%
つめを切るように指導しなかった。	11%

児童アンケート 28年度と比較し、5%以上増加を青字、減少を赤字とする。

1. 学習について①（低学年）	低
授業を楽しみ、自分から家で楽しかったことを話したり、がんばったノートなどを見せたりしている。	52%
授業を楽しみ、お家の人に聞かれたら、楽しかったことを話したり、がんばったノートなどを見せたりしている。	29%
授業のことを、お家の人に聞かれたら、話をしたり、ノートなどを見せたりしている。	13%
お家の人に授業のことを、ほとんど話をしないし、何も見せない。	7%

1. 学習について①（中学年）	中
自分の思いや考えを書いたノートづくりを楽しみ、家の人にもノートを見せている。	53%
自分の思いや考えを書いたノートづくりをして、家の人にもノートを見せている。	34%
黒板をうつし、家の人にもノートを見せている。	9%
黒板もうつすことも不十分で、家の人にもノートを見せていない。	4%

1. 学習について①（高学年）	高
自分の思いや考えを書いたノートづくりをして、創意工夫することを楽しんでいる。	34%
自分の思いや考えを書いたノートづくりをして、創意工夫することを心がけている。	48%
自分の思いや考えを書いたノートをとときどきつくっている。	16%
自分の思いや考えを書いたノートをつくっていない。	2%

2. 学習について②	全	低	中	高
勉強がよくわかって楽しかった。	82%	91%	80%	77%
勉強はわかったが、あまり楽しくなかった。	14%	6%	18%	17%
勉強はあまりわからなかったが、楽しかった。	4%	3%	2%	5%
勉強がわからないし、楽しくもなかった。	0%	0%	0%	0%

3. 友だちについて①	全	低	中	高
学級の友だちとさまざまな場面で、なかよく協力することができた。	76%	78%	74%	75%
学級の友だちとさまざまな場面で、協力することができた。	19%	17%	21%	19%
学級の友だちとさまざまな場面で、ときどき協力することができた。	4%	4%	3%	3%
学級の友だちとさまざまな場面で、協力することができなかった。	1%	0%	1%	2%

4. 友だちについて②	全	低	中	高
困っているとき、やさしくされたことに、よく気が付いた。	70%	75%	71%	64%
困っているとき、やさしくされたことに、ときどき気が付いた。	26%	21%	26%	30%
困っているとき、やさしくされたことに、あまり気が付かなかった。	3%	2%	3%	4%
困っているとき、やさしくされたことにまったく気が付かなかった。	1%	2%	0%	1%

5. そうじについて①	全	低	中	高
担当の場所を、がんばって掃除してきれいになりました。	78%	88%	79%	68%
担当の場所を、掃除したがあまりきれいにならなかった。	19%	12%	19%	25%
担当の場所を、あまり掃除できなかった。	3%	0%	2%	6%

6. そうじについて②	全	低	中	高
いつも友だちと協力して、きれいになるように掃除をした。	67%	82%	66%	53%
だいたい友だちと協力して、きれいになるように掃除をした。	31%	16%	33%	44%
友だちと協力して掃除ができなかった。	2%	1%	1%	3%

7. 友だちとのかかわりについて ※29年度より	全	低	中	高
友だちの気持ちを考えて、いつも行動することができた。	54%	58%	54%	50%
友だちの気持ちを考えて、たいてい行動することができた。	41%	37%	40%	45%
友だちの気持ちを考えて、あまり行動できなかった。	4%	5%	5%	3%
友だちの気持ちを考えて、まったく行動できなかった。	1%	0%	0%	1%

8. 下校について①	全	低	中	高
周りの様子を気をつけながら、安全に下校することができた。	73%	87%	71%	60%
前とあまり変わらなかった。	25%	13%	28%	35%
周りの様子を見ないで下校をしていた。	2%	0%	1%	4%
安全に下校することができなかった。	0%	0%	0%	1%

9. 下校について②	全	低	中	高
下校の時刻を確認し、毎日守ることができた。	59%	56%	64%	57%
下校の時刻を確認し、守ることができた。	35%	38%	30%	36%
下校の時刻をあまり守ることができなかった。	6%	6%	6%	6%
下校の時刻を全く守ることができなかった。	0%	0%	0%	0%

10. 給食の準備について	全	低	中	高
もともと給食準備中の身支度や手洗いができていた。	67%	71%	67%	63%
給食準備中の身支度や手洗いができるようになった。	26%	26%	25%	28%
給食準備中の身支度や手洗いがあまりできなかった。	7%	3%	8%	10%

11. つめを切ることについて ※29年度より	全	低	中	高
もともとつめをきちんと切っていた。	56%	53%	56%	59%
つめがのびたら切るようになった。	36%	42%	35%	32%
あまりつめを切らなかった。	8%	5%	9%	9%

保護者アンケート 28年度と比較し、5%以上増加を青字、減少を赤字とする。

I. 学年	全校	低学年	中学年	高学年
数 (人)	557	192	182	183
回答率 (%)	90	93	88	88

II. 学習指導	全	低	中	高
本校の学習への取り組みについて、十分に理解できた。	54%	67%	54%	40%
本校の学習への取り組みについて、ある程度理解できた。	39%	26%	43%	49%
本校の学習への取り組みについて、あまり理解できなかった。	6%	5%	3%	10%
本校の学習への取り組みについて、ほとんど理解できなかった。	1%	2%	0%	1%

III. 学級経営	全	低	中	高
お子さんの学級担任の学級運営について、十分である。	57%	67%	61%	42%
お子さんの学級担任の学級運営について、概ね十分である。	36%	25%	35%	49%
お子さんの学級担任の学級運営について、やや不十分である。	6%	7%	4%	8%
お子さんの学級担任の学級運営について、不十分である。	1%	2%	0%	1%

IV1. 清掃活動	全	低	中	高
責任をもって清掃ができるようになった。	36%	45%	40%	21%
概ね責任をもって清掃ができるようになった。	40%	39%	41%	42%
以前とあまり変わらない。	19%	14%	14%	28%
掃除ができているとはいえない。	5%	3%	5%	9%

IV2. 清掃活動	全	低	中	高
学校が前よりとても美しくなった。	7%	11%	5%	3%
学校が前より美しくなった。	37%	46%	41%	25%
前とさほど変わらない。	50%	40%	50%	62%
学校があまり美しいとは言えなくなった。	6%	3%	4%	10%

V. ソーシャルスキル ※29年度より	全	低	中	高
子どもは、いつも友だちとよりよくかかわろうとしている。	55%	59%	64%	44%
子どもは、たいてい友だちとよりよくかかわろうとしている。	43%	40%	35%	55%
子どもは、あまり友だちとよりよくかかわろうとしていない。	1%	1%	1%	1%
子どもは、全く友だちとよりよくかかわろうとしていない。	0%	0%	1%	1%

VI. 登下校指導	全	低	中	高
周りの安全に気をつけながら登下校することができていた。	52%	61%	53%	42%
前とあまり変わらなかった。	42%	33%	42%	50%
周りの安全に気をつけながら登下校することができていなかった。	6%	5%	5%	8%

VII. 保健・給食指導	全	低	中	高
保健・給食指導の取り組みについて、十分である。	42%	57%	40%	30%
保健・給食指導の取り組みについて、概ね十分である。	49%	38%	54%	58%
保健・給食指導の取り組みについて、やや不十分である。	7%	6%	6%	9%
保健・給食指導の取り組みについて、不十分である。	1%	0%	1%	3%